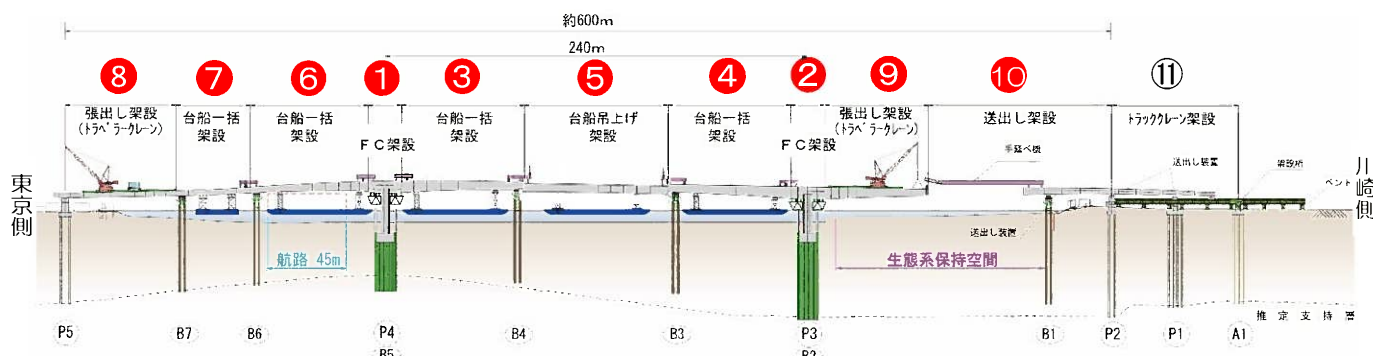




架設は多摩川渡河部から取付部橋梁に

橋上から360°の眺望が楽しめます



● 設置完了

A: 橋台のこと (アバット) P: 橋脚のこと (ピア) B: 架設用の仮の橋脚 (ベント) のこと

2019年6月14日に①のFC架設を皮切りに、2019年9月30日より③の台船架設を開始し、2021年2月2日に⑨と⑩のボルト接合を行い、渡河部橋梁約600mがつながりました。2021年2月27日には環状八号線上の橋桁の架設も完了し、殿町から羽田まで歩いて渡れる状況になりました。

3月からは⑪の2径間の取付部橋梁 L=72mの施工を開始し、取付道路部分の工事も最盛期を迎えています。

今回は橋上からの眺望を紹介します。上流側には産業道路の大師橋があり、その後方には丹沢連峰が望め、冬の空気が澄んだ時には富士山の冠雪を見ることができます。下流側は羽田空港D滑走とアクアラインの風の塔が望め、空気が澄んだ時には房総半島を見ることができます。皆様に橋上からの360°の眺望が楽しんでいただけるように、安全第一で工事を進めていきます。



橋上からの眺望 (上流側 2021年1月29日撮影)



渡河部施工状況 (2021年3月30日撮影)



取付部施工状況

【多摩川河口干潟の生き物 ⑬(チュウシャクシギ)】

チュウシャクシギは、殿町の干潟で見られるシギの仲間では比較的大柄(体長42cm、翼を広げると80cm)です。細くて長くて、少し曲がった嘴を持っていて、干潟では主に穴の中に嘴を差し込んでカニを捕って食べているので、右の写真のような光景をよく見かけます。見るからに差し込みやすそうな嘴で、少し曲っているくらいが丁度いいみたいですね。ただ、もっと上流の淡水域に来ることもあり、そこではカエルやオタマジャクシを食べているのですが、曲った嘴は逆効果では?…と心配になります。やはり、チュウシャクシギは干潟の方が、安心して見ていられますね。



曲がったことは嫌い。って、言われると困ります…

干潟の埋戻しを開始します

3年の工事を経て干潟の回復を図ります

2018年4月よりP3橋脚構築のため、周辺を鋼矢板で囲み、浚渫を行いました。

その後、橋脚の基礎となる鋼管矢板の打設、橋脚の構築、橋桁の架設を行い、2021年3月にP3橋脚に設置していた斜ベント（桁を架設するための仮設備）の撤去が完了しました。

これによりP3橋脚周辺の工事が完了しましたので、4月末より鋼矢板の引き抜きを行い、干潟部の埋戻しをして干潟の復元・回復を図ります。令和元年東日本台風の影響により周辺の干潟形状が変わりましたが、有識者の先生方の助言に基づき、現況の多摩川河口干潟に即した埋戻しを行います。

夏の干潮時には橋脚周りに干潟が現れる予定です。



浚渫前の干潟の状況 (2018.3)



干潟埋戻し範囲(2021.4.12)

新メンバーを紹介します

4月に新しいメンバーが加わりました

新年度を迎え、新たなメンバーが2名配属され、今年度も6名体制で羽田連絡道路の整備に取り組んでいきます。

現場では、スレンダーな橋の形がはっきりと見え始め、開通への期待感が高まってきました。近隣の皆さまには、交通規制や騒音等、ご迷惑をおかけしております。今年度中の一日も早い開通に向けて、整備を進めていきますので、ご理解ご協力の程、お願いいたします。

(新メンバーよりコメント)

事業の最終年度で異動してまいりました。短い期間ですが、事業効果の早期発現に向けて全力で取り組んでまいりますので、よろしくお願ひします。



【土木豆知識⑬】 土運船

橋梁部の工事も進み、4月末から干潟部の埋戻しを開始します。今回はその埋戻しに使用する土運船について解説します。

土運船とは、名前の通り土砂を運搬する船で、自船の推進器で航行する自航式と、自らは航行できない非自航式があり、非自航式には引船による曳航方式と押船による押航方式があります。多摩川で使用される土運船のほとんどは非自航式です。

また、土砂の積み方の形式として甲板上に土砂を積載する甲板式と船体内部に積載する船倉式があり、船倉式には船倉の底部が左右に開いて土砂を水底に投棄する底開式、船倉部全体が中央部より左右に開いて土砂を投棄する全開式、箱状の船倉からバックホウ等の機械を用いて揚土する密閉式等があります。

本工事では、浚渫作業時は底開式の土運船を使用しました。これは、浚渫した土砂を浮島処分場へ運搬し、その場で底を開いて土砂を投入するためです。今回の埋戻しには密閉式の土運船を使用します。



曳船方式



押船方式



底開式土運船



密閉式土運船

お問合せ先



川崎市建設緑政局広域道路整備室
羽田連絡道路建設事務所

川崎市

所在地：〒210-0821

川崎市川崎区殿町3-25-25

電話：044(200)0436

FAX：044(288)1782

[http://www.city.kawasaki.jp/530/page/](http://www.city.kawasaki.jp/530/page/0000097966.html)

0000097966.html



五洋・日立造船・不動テトラ・横河・
本間・高田共同企業体(五洋JV)

所在地：〒210-0821

川崎市川崎区殿町3-25-24

電話：044(201)9381

FAX：044(201)9382

<http://www.poc-site.jp/kb/tonomachi/>